

「帰国・外国人児童生徒と共に進める教育の国際化推進地域」中間報告

1 帰国・外国人児童生徒と共に進める教育の国際化推進地域の概要

平成14年9月1日現在の推進地域内の以下の児童生徒数

	小学校	中学校	計
ア 海外帰国児童生徒在籍数	10	0	10
イ 中国等帰国児童生徒数	30	19	49
ウ 日本語が必要な外国人児童生徒数	13	20	23

推進地域の特色

本市は、東岩槻地区に大規模な県営、市営団地があり、この団地には中国帰国者が多く住んでいる。更に、残留婦人や残留孤児を頼って来た知人が、この団地に居住するため、そのこどもが、東岩槻地区（東岩槻小学校、桜山中学校）の学校に在籍している。

中国帰国者の互助団体「紅梅の会」があり、帰国者は話し合い、助け合って生活している。

帰国・外国人児童生徒の実態（学校生活への適応状況、日本語能力の程度等）

児童生徒のうち、低学年の児童は日本で生まれた児童が多い。したがって日常会話においては全く問題はなく、学校にも適応している。

高学年の児童や生徒の中には中国で生まれ、日本に帰国している児童生徒もあり、生徒の中には、日常会話においてもやや不自由している者もいたが、今年一年間で全く問題ないレベルになっている。

しかし、授業レベルの日本語能力となると指導援助を必要とする児童生徒も多い。

2 帰国・外国人児童生徒と共に進める教育の国際化推進地域センター校の概要

学校名等

学 校 名	岩槻市立東岩槻小学校
校 長 名	大野 興一
所 在 地	岩槻市諏訪2 - 6

学 校 規 模	全校児童数 385 名、学級数 15 クラス（各学 年 2 クラス + 特殊学級 3 クラス） 職員数 29 名
電 話 番 号	0 4 8 - 7 9 4 - 1 5 8 4
F A X 番 号	0 4 8 - 7 9 5 - 0 3 6 9
そ の 他	東部野田線東岩槻駅より徒歩 15 分

センター校への通級児童生徒数

385 名（内、外国人児童生徒数 13 名）

センター校での指導時間及び指導内容

26 時間（日本語指導 22 時間・家庭科 4 時間）

センター校を中心とする帰国・外国人児童生徒指導協力体制について

### 3 帰国・外国人児童生徒と共に進める教育の国際化推進体制の整備

教育国際化推進連絡協議会の概要

ア 構成員

埼玉県教育委員会、岩槻市教育委員会、紅梅の会、自治会長、学校評議員、  
P T A 会長、民生委員、主任児童委員、桜山中学校、東岩槻小学校

イ 活動状況

2 月 1 4 日に第 1 回の推進委員会を実施した。授業参観の後、委員会を行い、  
評価と今後の研究の指針を示していただいた。

ウ 協議会設置の効果

1 回ではあったが、第一歩を踏み出すことができ、今後の取組にむけて、前向  
きな意見が交わされた。

加配教員の活用状況

加配教員として、中国語が多少できる女性教員が、日本語指導を週 22 時間、また  
家庭科を週 4 時間行っている。子どもたちにやさしく接し、丁寧な指導を実施されて  
おり、児童、保護者から大変好評である。

教育相談員の派遣状況及びその効果

該当なし

#### 4 平成14年度の具体的な取組内容とその成果等について

##### 研究主題

「帰国・外国人児童生徒とその他の児童生徒との相互啓発による国際理解・異文化理解の推進」

～ 帰国児童生徒とその他の児童生徒との相互啓発を図る教育活動の工夫～

国際理解教育の必要性が現在、叫ばれている中、本市においては、中国からの帰国児童生徒を受け入れている関係から、その必要性の重要性を強く感じている。2校の児童生徒は帰国児童生徒と共に生活し学習する中で、異なる国で生活を経験した人間同士が互いにその違いを認め合い、尊重し合って生きていくことの大切さを身をもって学ぶことができる。また、帰国児童生徒自身も日本や日本の人々との関わりを通して、二つの祖国の大切さを自覚するとともに、日本で生活するすべを学校生活などから自然と学んでいくことができる。

以上のことから、日本で育った児童生徒と帰国児童生徒の双方が、共に学び、成長し、社会の変化に対応して生ける力を身につけ、さらに世界の人々と心を開き、交流することのできる児童生徒の育成を目指している。

研究主題に関連した活動及びその成果、 帰国・外国人児童生徒とその他の児童生徒の相互啓発の観点による取り組み及びその成果

##### \* 主な活動内容

###### ア 「よろしくの会」

中国帰国児童の入学、編入、転入があった場合、他の児童に紹介し、お互いに知り合いながら、わからないことは積極的に援助できる態度を養うことをねらいとし、スムーズに学校生活が進むように実施している。

###### イ 国際理解集会

帰国児童とともに学習や生活する中でその他の児童が、異なる国で生活を経験した人間に接し、互いにその違いを認め合い、尊重し合いながら生きていくことの大切さを学ぶ場として、国際理解集会を行った。今年度は目白大学の留学生を招いて行った。

###### ウ その他

「ニイハオ中国語」と銘打って中国語の学習をしたり、中国蘇州の小学校と絵手紙の交換を行っている。いずれの取り組みにおいても、先述した「紅梅の会」の方々に、陰に日向に協力していただいている。

##### 推進地域としての取り組み及びその成果

帰国生徒に対して必要に応じた補習授業として、9月から2月にかけて、毎週木曜日の午後4：30から6：00まで、学区内の集会所において「中学生学級」を実施している。桜山中学校教諭が主に5教科の補充と日本語指導を行うものである。

あわせて普段は言えない悩み事相談も行っている。

#### 地域と連携した活動及びその成果

「紅梅の会」の方々や目白大学の留学生（中国の方）との交流を行った。「紅梅の会」の方々には、学習ボランティアとしていくつかの学校行事に参加していただいた。また、目白大学の留学生とは交流会を開催し、おにぎり作りやバトミントンなどをして、楽しんだ。それらの方々から、励ましのことばをいただいて勇気や意欲を持った児童が増え、効果が大きかった。

#### 連携した団体等の概要

「紅梅の会」...中国帰国者の互助団体で、帰国児童生徒やその家族への通訳や教育相談活動等日常的に指導援助をいただいている。村上米子さんを会長に十数名の方が活動されている。

「目白大学」...本市にある大学で、中国や韓国からの留学生も多く通っている。

#### その他特筆すべき平成14年度の成果と課題

特になし

#### 平成15年度の課題及び事業計画概要

- ・帰国児童生徒とその他の児童生徒との相互啓発を図る教育活動として、総合的な学習の時間にて、中国語、英語、中国文化の学習を取り入れ、更には、日本の文化についても学ぶ。
- ・中国帰国者の互助会「紅梅の会」の協力、小学校と中学校との連携を図る中で、地域との連携のあり方を探り、更に、中国の小学校、中学校との交流も推進する。
- ・日本語教室における日本語指導、体験的な学習を充実させる。

#### 平成15年度の年間スケジュール

4月	国際化推進実行委員会
5月	第1回国際化推進委員会 先進校視察
6月	第1回授業研究会 第2回国際化推進委員会 先進校視察
7月	国際理解集会（小中交流会） 第3回国際化推進委員会
8月	「紅梅の会」等地域との交流
9月	第4回国際化推進委員会 中学生学級（小学生学級） 小学校（東岩槻小学校）と中学校（桜山中学校）との交換会
10月	第2回授業研究会 第5回国際化推進委員会

	研究紀要作成
1 1 月	国際理解教育研究発表会 第 6 回国際化推進委員会
1 2 月	小学校（東岩槻小）と中学校（桜山中）との交換会 第 7 回国際化推進委員会
1 月	第 3 回授業研究会
2 月	事業のまとめ
その他	総合的な学習に時間における国際理解教育の実施 紅梅の会との交流 目白大学との交流 絵手紙による中国新蘇小学校との交流 等